

図書館だより

発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糍屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

http://www.library.taka.hyogo.jp/

ことばの葉だより

子どものころをすくいとる

ふるた たるひ
児童文学者 古田 足日 編

子どもの一日一日は
未知の世界との
戦いである。

—『現代児童文学論』より—
(くろしお出版)



古田足日さんに関するクイズです。

I. 父の命名による「足日」は、「命あるものの生き栄え物事の満ち足りているよい日」という意味だそうです。その出典は？

- ①古事記 ②延喜式
③日本書紀 ④竹取物語

II. 画家・田畑精一さんとの記念すべき第一作目は？

- ①ロボットカミイ ②くいしんぼロボット
③おいしいのぼうけん ④ぬすまれた町

III. ホタルブクロはどの本にでてくる花？

- ①大きい1年生と小さな2年生
②へび山のあい子
③モグラ原っぱのなかまたち
④だんぷえんちようやつつけた

IV. おいしいのぼうけんのねずみばあさんは絵本になる前、保育園でどのように演技された？



- ①紙芝居
②影絵
③ペープサート
④人形劇

【こたえ】は右下にあるよ

【参考文献】

『古田足日さんからのバトン』(かもがわ出版)、『全集 古田足日子どもの本 1～13・別巻』(童心社)、『わたしたちのアジア・太平洋戦争1～3』(童心社)『作家が語る わたしの児童文学15人』(につけん教育出版社)『現代児童文学を問いつけて』(くろしお出版)



『さくらさひめの大しごと』

『だんぷえんちようやつつけた』

『ロボット・カミイ』

『宿題ひきうけ株式会社』

『さくらんぼクラブにクロがきた』

『モグラ原っぱのなかまたち』

『おいしいのぼうけん』

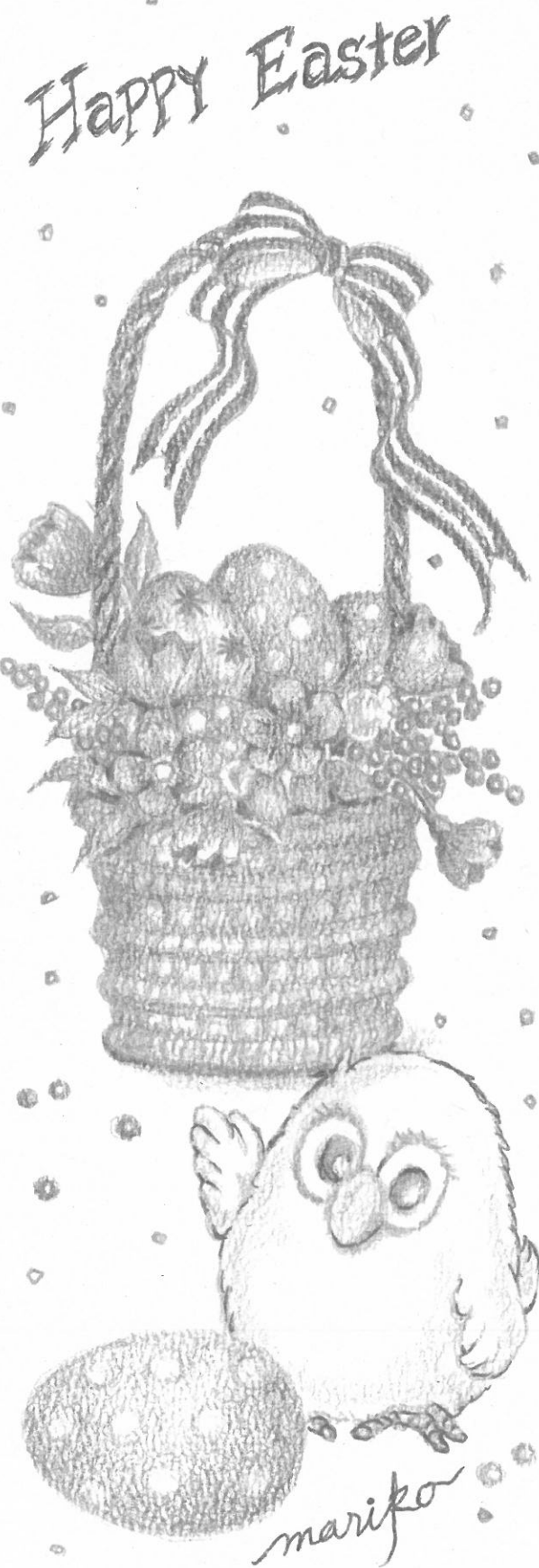
『大きい1年生と小さな2年生』他

図書館にある古田足日さんの作品

【こたえ】 I・・・② II・・・②
III・・・① IV・・・④

「本とインターネット」

多可町図書館 大杉和則



私は、図書館への異動が決まった時、普段から積極的に本を読むことがない私に、図書館の仕事が務まるだろうか、と不安に感じていました。皆さんに助けられながら、いつのまにか3年が過ぎました。そして、この間にたくさん本の本に出会うことができました。そこで気づいたのが、情報収集をするためには、本がとても役に立つということです。もともと私は、調べたいことがあればササッとネットで検索……といった考えの持ち主でしたが、図書館で

本に囲まれていると考えも変わりました。本一冊を読むと、一貫した情報が一冊にまとめられていて、すんなりと頭の中に入ってきました。ネットで調べると早くて便利なのですが、検索結果も膨大で、結局は自分の都合のいい情報だけをつまみ食いして、都合のいい知識だけが得られる結果になります。でも、本一冊には知識となる情報が詰めて込まれているのは、もちろんのことですが、著者が執筆するに至った経緯や、熱い思いも伝わり、知識だけではない何かそれ以上のものも得られる気がします。また、多くの方の手をかけて一冊が編集されていることもあり、その情報の信頼度も高くなります。このほか、ネット検索では検索ワード以

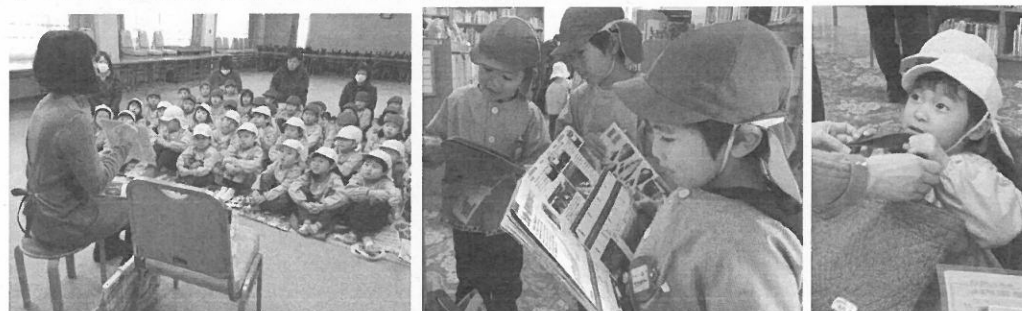
外の結果は得られませんが、図書館で本を探す場合では、読みたい本の隣に正反對のことが書かれている本が並んでいた、なんてこともあったり、幅広く本を探すことができます。とは言いますが、ネットの情報は全部ダメ、ということではありません。利点はタイムリーに情報がやり取りできる事。例えば、災害などの緊急時には、SNSが情報収集や連絡手段として役に立ったことは報道もされてきました。要はネットも使い方次第です。でももし、最近はネットのつまみ食いばかりだ……といった方があれば、ぜひ、図書館に足を運んでみてください。きっと、あなたにぴったりの本のメインディッシュが見つかりますよ。



みどりこども園

1月11日(水)

みどりこども園の4歳児・5歳児の子どもたちが、図書館にきてくれました。おはなし会では『おししのくびはなぜあかい』などのおはなしを楽しそうに聞く子どもたち。このあとは、それぞれが好きな本を選んで本を借ります。カウンター前に順番に並んで、一人ひとり上手に借りることができました。



かるた会

1月7日(土)



毎年恒例の「かるた会」を開催し、小学4～6年生は百人一首に、小学3年生以下がいろはかるたにそれぞれ挑戦しました。

百人一首では、今年読み手として参加していただいた細田蓼さんが、ゆっくりと句を読み上げると、子どもたちは頭を突き合わせて、勢いよく札を取り合い、熱戦を繰り広げました。

いろはかるたでは、読み聞かせグループの「あいあい」のメンバーが読み上げる言葉に耳をすます子どもたち。札がみつかったら、「はい!」と元気よくかるたを取り、嬉しそうな笑顔をみせていました。



4月11日に大賞が発表されます!

2017年ノミネート10作品

本屋大賞



『i』
西加奈子／著
ポプラ社
(Fニシ)



『暗幕のゲルニカ』
原田マハ／著
新潮社
(Fハラ)



『桜風堂ものがたり』
村山早紀／著
PHP 研究所
(Fムラ)



『コーヒーが冷めないうちに』
川口俊和／著
サンマーク出版
(Fカワ)



『コンビニ人間』
村田沙耶香／著
文藝春秋
(Fムラ)



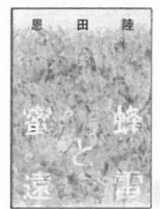
『ツバキ文具店』
小川糸／著
幻冬舎
(Fオカ)



『罪の声』
塩田武士／著
講談社
(Fシオ)



『みかづき』
森絵都／著
集英社
(Fモリ)



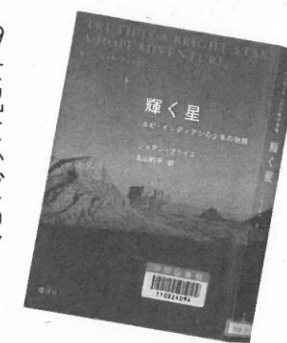
『蜜蜂と遠雷』
恩田陸／著
幻冬舎
(Fオン)



『夜行』
森登美彦／著
小学館
(Fモリ)



Book menu



『輝く星』
ジョアン・プライス／著
出版社: 地湧社
ジャンル: 小説
(933P)



『素数姫の素数入門』
「素数に恋する女」
製作委員会／著
出版社: 洋泉社
ジャンル: 実用書
(412P)



『私のスポットライト』
林 真理子／著
出版社: ポプラ社
ジャンル: 児童読み物
(K913ハ)

19世紀なかばのアメリカ大陸。テーブル状の高原台地の頭頂部にあるオライビ村に住むロマは、インディアンの子供もです。冬を迎えたある日、オライビ村がスペイン兵たちの襲撃を受けました。子どもたちは拉致され、白人たちの奴隷として売られることに…。ロマを買ったのは巨体の山男ビッグ・ジム。ビッグ・ジムは、数日かけて山小屋へ到着しました。ここで狼をしながら一冬を過ごすのです。しかし、金儲けのための狩猟に抵抗があるロマは、わなを仕掛けることを拒絶し続けます。そんなロマに対し、ビッグ・ジムの怒りは頂点に達し一人で行く方向に決まりました。ビッグ・ジムが出て3日目のこと、ロマが山小屋で考え事をしていると、扉をノックする音が…。そこにいたのは、インディアンの老人でした。彼は、どうして、こんな山奥に迷い込んだのか。また、帰ってこないビッグ・ジムの行方は…。ロマとビッグ・ジム、二人のかけがえのない冬の物語です。(か)

素数とは、1とその数でしか割れない数の事を言います。素数は素数分解の方法で利用されていて、インターネット上の暗号化通信(クレジットカード決済等)では、二つの素数を掛けて出来る617桁の数、個人情報を守るための鍵として使われています。鍵を解くには素数分解が必要ですが、二つの素数を導き出す必要がありますが、コンピュータは素数分解の計算を苦手としていて、232桁の数の素数分解にも3年の期間を要するそうです。他にもエクスセルを用いた素数判定方法や、有名なリーマン予想の解説など、素数にまつわる素敵な話もりだくさん。素数を愛する薬剤師「まゆ」と、算数が苦手な会社員「とも」の二人が、神戸弁の対話形式でわかりやすく紹介してくれます。世界の数学者達を夢中にさせる、素数の魅力を感じてみませんか。(さ)

世の中にも学校にも、いろんな人や生徒がいて、その「いろんな」にある違いを個性として受け止め、認めあえれば素晴らしいけれど、なかなかそうもいかないことがよくあります。彩希は中学一年生で、顔も成績も中の、ふつうの女の子です。ところが、幼いころは仲良しで、よく遊んだイトコの美冬は、このごろ本当に可愛くてなつて、スタイルもよく大人びてきました。とても同じ年には見えなくて、この差はなんだろうと彩希は思うのです。そんな彩希ですから、クラスのにぎやかグループの女子たちからはジミな子と見下されているのに、文化祭の学級演劇の主役にされてしまいます。イジメのような流れの中から、彩希が導き出した思い、踏み出した一歩を、あなた自身と重ねて読んでもらいたいです。(ゆ)

NEWS



お知らせ

平成29年4月より、丹波市立図書館で多可町に住民登録がある方も利用者登録ができるようになりました。

また、丹波市の方も多可町図書館で利用登録ができます。

詳しくは図書館までお問い合わせください。

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<http://www.library.taka.hyogo.jp/>

「人と人との架け橋」
エルドリッチ研究所代表
ロバート・D・エルドリッチ

私は本を読むことが大好きです。しかし、それ以上に本を書くのが好きで毎日その両方の作業に取り組んでいます。書齋の机に座わりコンピュータに向って執筆します。そうでなければ頭の中で書いています。

学者になって以来 15 年間、およそ 70 冊の日英両語の本の執筆、寄稿、編集、または翻訳をしてきました。死の直前まで書き続けるつもりです。

文章を書くことが好きなのは幾つかの理由があります。より正確に言え

ば本や論文を書くというより、研究や調査をするのが好きなのです。つまり文章はそれを伝える手段なのです。なかでも今まで世界の学者が研究してこなかったことや十分に分析してこなかった問題について検討するのが好きなのです。また、その問題に対して独特な見方を提供することも好んでいます。

私は文章においてこうしたユニークな見解や立場を紹介し、または統合させようとしています。言い換えれば、私は、架け橋になろうとしているのです。

例えば、歴史と時事問題、あるいは将来の政策提言と併せてみたり、または歴史学と政治学、あるいはその逆を組んでみたりします。そして、歴史における人物の役割を取り上げながら、

組織・団体、地元、国家、二国間、地域、国際社会などの情勢との関連性を見つけようとしています。実務家と研究者の連携を図ったり、その反対のコンビを組んでみたりもします。さらに、母国アメリカと第二の故郷、日本との架け橋でありたいとも考えています。その動機は珍しい人生を歩んできた私にしかできない研究を追及し、可能な限り研究や政策提言を通じて、日米関係、あるいは世界や人類をよくしたいと考えているからなのです。

様々な研究計画はありますが、将来できれば、昔、住んでいた中町について、英語の本で紹介したいと思っています。その題名は、

—— Japan's Middletown ——

中町滞在以来の夢です。

※詳しいプロフィールは裏面に



ことばの葉だより

エンターテインメント作家

恩田 陸 編

『蜜蜂と遠雷』で本屋大賞と直木賞、二つの賞を受賞した恩田さん。これらの賞をダブルで受賞するのは史上初の快挙となりました。そんな彼女は 1964 年、宮城県に生まれます。仕事の合間を縫って小説を書き始め、会社を辞めた 91 年の春に日本ファンタジーノベル大賞に応募、翌年『六番目の小夜子』でデビューします。恩田陸はペンネームで、苗字は「やっぱり猫が好き」という番組に登場する恩田三姉妹から拝借し、“陸”は性別がわからない名前にしようと深く考えずにつけられたとのこと。

2 作目以降は会社勤めと作家という二足のわらじを履いて活動し、33 歳の時ついに独立、専業作家としてスタートします。当時プロになるからには量をこなさなければならないと思い込み、ありとあらゆる注文を引き受け、そのため多作な作家だといわれるようになります。では一体どうやって題材を探すのか？一つは子どもの頃に読んだ本へのオマージュ。もう一つは映画を見て思いつくというパターンだそうです。そして、タイトルが決まれば話の性格も 6〜7 割方決まってしまうのだとか。

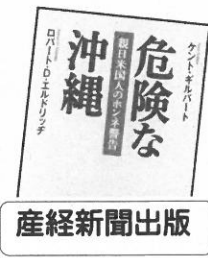
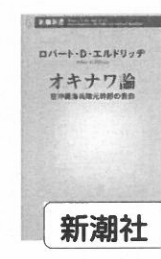
年間 300 冊もの本を読み、多くの作品を世に出し続ける恩田さん。その彼女の書き続けるモチベーション、その答えはただひとつ、「意地」なんだそうです。それも読者としての自分への意地。かつて読者だった自分をがっかりさせたくない、そのことに尽き、そのためにこれからも書き続けるのだそうです。

今回の巻頭言はこの人!! ロバート・D・エルドリッチ さん



1968 年、アメリカ・ニュージャージー州生まれ。1990 年にアメリカ・バージニア州リンチバーグ大学国際関係学部卒業後、同年 7 月に JET プログラムにより来日し、中町中学校初代 ALT として 2 年間英語を教えると共に、地域と積極的につながる活動を展開。その後、神戸大学法学研究科博士課程を修了、政治学博士号を取得。2001 年より大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授。2009 年〜2015 年まで、在沖縄米海兵隊政務外交部次長を務め、トモダチ作戦の立案に携わる。現在、エルドリッチ研究所代表。

図書館にある本をご紹介します



- 【こたえ】
- I...②
 - II...④
 - III...③
 - IV...①
 - V...①

「面白い本が読みたい」という欲望がなくなったら、その時が小説を書くのをやめる時だろう
— 『小説以外』(新潮社)より —

恩田陸さんに関するクイズです。

- I. 引越した先の隣の部屋は、ある作家の事務所でした。それは誰の事務所？
- ①幸田真音 ②藤田宜永
 - ③内田康夫 ④葉室 麟
- II. 今回の『蜜蜂と遠雷』の以前にも本屋大賞を受賞しています。そのタイトルは？
- ①『ユーギニア』 ②『図書室の海』
 - ③『ねじの回転』 ④『夜のピクニック』
- III. 著者が幼年時代にインパクトを受けた本は？
- ①『ゲド戦記』 ②『ハウルの動く城』
 - ③『チョコレート工場のひみつ』
 - ④『トム・ソーヤの冒険』
- IV. 著者が断トツで憂鬱になる曲があるそうです。その曲名とは。
- ①「ヘイ・ジュード」(ビートルズ)
 - ②「サウンド・オブ・サイレンス」(サイモン&ガーファンクル)
 - ③「トップ・オブ・ザ・ワールド」(カーペンターズ)
 - ④「ホテル・カリフォルニア」(イーグルス)
- V. 恩田さんの嫌いな乗り物は
- ①飛行機 ②バス ③新幹線 ④地下鉄
- 【こたえ】は右下にあるよ

【参考文献】『小説以外』(新潮社)、『文藝春秋』(2017 年 3 月号)、『ミステリを書く!』(小学館)、『土曜日は灰色の馬』(晶文社)

図書館に来たよ!

4/11 中町南小の1年生が遠足の途中に、5/10と5/12には町内の施設めぐりの一環として八千代小と松井小の3年生がそれぞれ見学に来てくれました。



さらに、6/23には、杉原谷小の3年生も来館。おはなし会を楽しんだり、館内を見学したりと充実した時を過ごしました。図書館についていろいろな質問も飛び出していました。



特別おはなし会

5月13日(土)



図書館

— 4~6月 —

子どもの読書週間にちなんで大型絵本の読み聞かせやパネルシアターなど、いつもとは違ったおはなし会を開催。終了後は、絵本カバーを使った手作り自由帳と手提げかばんを参加者にプレゼントしました。

トライやるウィーク

6月7日(水)~11日(日)



毎年恒例のトライやる。今年は4名の生徒が、貸出・返却業務はもちろんのこと、本の装備体験、壁面飾りなど普段利用者側からは見えない様々な図書館業務を体験しました。今回の図書館だよりのタイトルロゴもトライやる生が書きました。

本と人とまち、出会いがいっぱい 図書館まつり

講演会「中町中学校のALTから27年」

おかえり!
ロバート先生

《講演概要》

1990年7月に中町中学校初代ALTとして来日され、以来27年余の間、日本人と人との架け橋になるための研究や実践に没頭してこられた自らの足跡を、柔和な語り口でご講演くださいました。なかでも、阪神・淡路大震災被災の経験や教訓をもとに、東日本大震災被災地域への自衛隊と米軍との緊密な連携を礎とした“トモダチ作戦”による支援の指揮には、ロバート先生が最も大切にされている理念が生きていることに感銘をうけました。



高校生ボランティアも大活躍



本のリサイクル広場



ミニ縁日



おはなし会



スライムをつくろう



マイノートブックをつくろう



装備体験



オープンカフェ



布絵本展示



Book menu

『だれが沖縄を殺すのか』



ロバート・D・エルドリッチ/著

PHP研究所
ジャンル: 実用書
(312工)

『還暦少年』



平山 譲/著

講談社
ジャンル: 小説
(F ヒラ)

『ほくだけの山の家』



ジーン・クレイグヘッド・

ジョージ/著

偕成社
ジャンル: 児童読み物
(K933シ)

私たちは「沖縄問題」と聞いて何を考えるでしょうか。沖縄問題とは経済・社会・歴史などの諸要素からなる紐が複雑に絡み合っている「結び目」のようなもので、基地という紐だけを無理に引っ張ろうとするとその「結び目」はますます堅くなり解くのが難しくなるという著者は述べています。

さらに沖縄自らが作り出している問題もあると続きます。中でも最も深刻なのは、人々が事実を正確に報道しようとしないうちに沖縄のメディアや一部の政治家に翻弄され自ら解決する知恵や努力を失ってしまうことだと指摘しています。そうなった時、沖縄は本当に殺されたことになるのだとも。

海兵隊に所属し、長年にわたり沖縄の姿を見つめてきた著者だからこそわかる真実。私たちは何をすべきなのか、深く考えさせられる一冊でした。

中町中学校の初代ALTとして活動されたロバート先生。多数の著書を出版されています。この機会にいかがですか。(あ)

還暦は誰にも訪れる人生の転機です。ここに登場する五人のオジさんたちもリタイヤや老いが訪れ、第二の人生に歩を進めねばならない状況です。しかし、五人ともが、過ぎ越し六十の人生への惜別を受け入れ難く、若かりし頃への思いに囚われ、それぞれ思案に暮れるばかりです。

どこの誰にも訪れる還暦。その時期は人それぞれですが、それに真正面から向き合い、受け入れ、そこから自分なりに未来を思い描き、勇気をもって歩き出さねばなりません。そのためには、まず自分の未来を信じるのが大前提となります。でも、残された時間での可能性を信じることは並大抵ではありません。そこには、どうしても支えとなるものがなくてはなりません。しかし、思案に暮れた五人のオジさんたちに未来を信じさせたものがありました。それは、還暦野球チームを通じた人とのつながりであり絆でした。事実に基づいて書かれていることが原動力となり、読む者に感動と勇気を与えてくれる作品です。(ゆ)

大地からのめぐみと自分の力のみを頼りに暮らすため、サム・グリブリーが家を出たのは五月のことでした。ニューヨークの家を出てキャッツキル山脈に向かったそのとき持っていたのは、ペンナイフ、紐ひと巻、斧、それに火打ち石と火打ち金でした。百年以上前に曾おじいさんが住んだという古いグリブリーの森を見つけ出し、サムは直径百八十センチもあるベイツガのうろを住処にして、大自然の只中で暮らし始めます。小枝を削ってこしらえた針で魚を釣り、様々なワナを仕掛けて小動物を捕まえます。住まいも衣服も食べ物も、ひとつひとつ自分の力で手に入れていくのです。サムは自分のために狩りをさせようと、ハヤブサの雛を調教しながら育てさせます。このハヤブサのトライトフルやイタチのバロン、アライグマやたぐさんの鳥たちとの日々が、うつろいゆく森の季節のなかにいきいきと描かれ、サムが身を委ねている森の空気までもが感じられる物語です。(り)

図書館だより

発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糀屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

http://www.library.taka.hyogo.jp/

ことば 言の葉だより

子どもの動きと表情を
深くとらえられる画家

林 明子 編

「どうしてみんな、見ないで描けるんだろう」(中略)
「ちゃんと実物を見ないと心配で。これでいいの
かって思っちゃうんですね。何かにすがったり
しないと描けないの。」

だから林さんは、そっくりそのままの
実物を、いつも準備した。

— 『絵本作家のアトリエ3』より —



「先生、この本と同じシリーズの本、
持つてる！」
クラスの子どもが教室に置いてある本
を手に取り、私に話しかけてくる。
「家にある同じシリーズの本、持つて
きてもいい？」
—— 子どもと本が繋がった瞬間だ。
これを機に家から本を持つてくる子ど
も。その姿を見て同じシリーズの本を
家から持つてくる子ども。持つてきた
本同士を交換し、読み合う子どもたち。
「次、その本、読ませてな。」
そんな会話も生まれてくる。どんどん、

中町南小学校 教諭 藤本貴裕

「つながる、子どもと本」

子どもと本がつながる。
その本は、多可町図書館から借りた
本で、歴史の本である。図書館では、
団体利用で50冊までの本を借りるこ
とができる。多くの先生方が利用し、
私も利用している一人だ。

私は本を通して子どもたちに学ば
きつけや成長するきっかけを与えたい
と考えている。そして、自分と本が「つ
ながる」喜びを感じ取ってほしい。今
回の話でいうと、教室にある歴史の本
をきっかけに、自分と学校にある本、
家にある本、そして、友だちとつな
がったわけだ。その時の一心不乱に本を
読んでいる子どもたちの真剣なまなざ
しは忘れられない。
恥ずかしながら私は子どもの頃、ほ

とんど本を読んでいなかった。しかし、
先生に紹介してもらった本が家にもあ
る時はうれしかったし、紹介を機に私
自身が本を読んだこともあった。子ど
もたちにとって、何が学ばきつけに
なるかはわからない。先述の子どもた
ちが数年後、歴史を学ぶ時に何を感じ
取るのか。この本との出会いをきつ
かに、歴史にさらに興味をもち、好き
になつてくれればと願うばかりである。
欲を言えば、人との出会いや将来の夢
につながればこの上ない。
これから本を通して、子どもたち
の無限大の可能性を後押ししたい。そ
のためにも私たち大人ができることは、
まだまだあるのではないだろうか。子
どもと本のすばらしい出会いのために。



1945年、6人きょうだいの3番目として誕生しま
す。子どもの頃は本の虫で、おやつ時間も忘れる
ほど夢中で読み、空想にふけたそうです。また、
絵を描くのも好きだった林さんは5年生の時、父に
連れられ洋画家、飯島一次が開催する子ども向け絵
画教室に通い始めます。そこでの自由な空気が彼女
にはなじみ、やがて絵を描いて生きていきたいとい
う気持ちがふくらんでいきました。

横浜国立大学の文芸学部(現教育学部)に進学し、
展覧会などに絵を出展するも佳作止まり。そんな彼
女に転機が訪れたのはデザイン事務所に就職して2
年目、華道の池坊の機関誌『新婦人』にカットを描
くようになってからでした。その時の女性編集者が
福音館書店に転職したことがきっかけとなり『母の
友』のカットやタイトル文字も描くようになります。
しかしその時点ではまだ絵本を描くなど考えて
もみなかったのですが、1973年運命の糸に引き寄
せられ、『かがくのとも』(56号)で絵本デビューを
果たします。その後『はじめてのおつかい』や『お
つきさまこんばんは』など数々の作品を発表。そし
て2013年、前回の作品から18年ぶりに新作絵本『ひ
よこさん』を完成させます。しかしこれを最後に、
もう絵本をつくるつもりはないのだそうです。

今やりたいことは、亡き夫で童話作家・征矢清さ
んの残した膨大な数の作品をゆっくりと読み返す
こと。そしてその中で絵をつけたいものがあれば、
誰にも内緒で描くかもしれないとのこと。

そんな林さんですが、今年4月、高松市美術館を
皮切りに「絵本のひきだし 林明子原画展」(全国5
か所)をスタートさせました。11/3~12/24には
伊丹市立美術館でも開催されます。芸術の秋です。
この機会に鑑賞してみるのはいかがでしょうか。



『はじめてのおつかい』



『はっぱのおうち』



『おふろだいすき』



『まほうのえのぐ』



『おでかけのまえに』



『おつきさまこんばんは』



『ひよこさん』



『もりのかくれんぼう』



『こんとあき』



『ガラスのうま』



『にせあかしの
魔術師』

【参考文献】

『MOE 2013年6月』(雑誌)、『絵本作家のアト
リエ3』(福音館書店)、『絵本・物語るよろこび』(福
武書店)、『母の友 4月号』(福音館書店)

【こたえ】

- I...③
- II...①
- III...③
- IV...②
- V...①
- VI...④

図書館見学

7月14日

中町北小学校の3年生が元気いっぱいに図書館見学にきてくれました。

熱心に説明を聞き、それぞれが知りたいことを質問し、しっかりとメモしていました。

その後、館内へ移動して、どんなふうに本が並んでいるのか、どんな工夫がされているのかなど見てまわり、自分の借りたい本や興味のある事柄などを積極的に調べていました。



読み聞かせ講座

8月9日



小栗栖真弓先生による『子どもの心を育てるもの』と題した読み聞かせ講座には、22名が参加されました。

“優れた絵本を読むことは、人が生きていくうえで一番大切な力である、相手の気持ちを推し量る力が子どもたちに育まれる”を大前提として、絵本の選び方や読み聞かせ方といった基本的なことを、分かりやすく教えていただきました。

「心が今日感じ取ったことを、頭が明日理解する」この言葉は絵本の持つ力を信じて託す先生の理念だと共感できる講座でした。

ビブリンピック

7月21日～8月31日

小学生を対象に“本を読んで10問のクイズに答える挑戦”と“50冊読破”の2つにチャレンジする夏休み企画、ビブリンピックを今年も開催しました。今年は去年の162人を大きく上回る197人の参加があり、クイズは62人、50冊読破は32人が達成しました。期間中、館内で夢中になってクイズに挑戦する子ども達の姿が印象的でした。夏休み中にお気に入りの1冊は見つかったかな。



図書館 — 7~9月 —



就業体験

多可高校の生徒2名が8月2日～4日の3日間、さらに北はりま特別支援学校の生徒1名が8月9～11日、13日の4日間図書館の業務を体験しました。本の装備体験、帯の貼り付け作業、書架整頓など様々な業務を体験しました。最終日はカウンター業務を体験し、夏休み期間中ということもあって、たくさんの利用者の方に笑顔で接客し、貸出返却の業務を行っていました。この経験を今後の進路に活かしてもらえたらと思います。

ひっぱって大きくなる絵本づくり

8月22日～23日

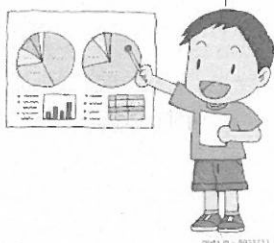
毎年恒例の夏チャレ！ 今年は「ひっぱって大きくなる絵本づくり」に、町内の小学生20人が参加してくれました。講師は、手づくり絵本作家の村上祐喜子先生。ひっぱると違う絵に早変わりする、不思議で楽しいしかけ絵本づくりに挑戦しました。中にはクイズ形式にしたり、今夏の思い出を描いたりする子も…。「こうしたらどう？」と先生にアドバイスをもらいながら、個性あふれる、世界に1つだけの絵本が完成しました。



中学生自由研究展示

9月21日～29日

今年も“多可町中学生理科自由研究作品展”をおこないました。町内の中学生が夏休み中の理科の自由研究として、自分でテーマを選び、調べ方を考え、工夫し、自分の手を使って、目で確かめながらテーマに迫り解決していった成果に、観覧に訪れた人たちから多数賞賛の声があがっていました。



Book menu



ねじめ正一／著

中央公論新社
ジャンル:小説
(Fネシ)



福原秀一郎／著

講談社
ジャンル:実用書
(317フ)



テイツク・キング
＝スミス／作
あすなろ書房
ジャンル:児童読み物
(K933キ)

『むーさんの自転車』

『警視庁 生きものがかり』

『ワビシーネ農場のふしぎなガチョウ』

父の不始末で家業の和菓子屋がつぶれたとき、一人息子である正雄は父や母とはなく、むーさんの故郷の長野で、むーさんと暮らすことを選びました。むーさんは和菓子屋「松野屋」にもち米を卸してくれていた米屋です。昭和時代の鉄の塊のような自転車を改造して、その荷台に重い米を積んで配達する、静かなのに力持ちで、優しいのに威厳があつて、絶対に弱音を吐かない人、そして小林一茶の句をこよなく愛する、それがむーさん。正雄は長野で暮らすうち、和菓子職人になる決意をし修行に励みますが、一人前になるまであと一歩というところでむーさんとの別れがやってきてしまします。むーさんに守られ支えられた月日。一日一日の積み重ねが自分の生き方をつくっていくというのを、一茶の句になぞらえながら、むーさんは正雄に示してくれたのです。

「エイヤツと活きた所が秋の暮」

一茶のこの句のように、エイヤツと自分で決めた生き方に潔く従い、正雄は未来に向かって歩み始めるのでした。(り)

筆者は、警視庁生活安全部生活環境課で、環境事犯捜査を担当しています。たとえば、物々しくなりませんが、平たく言えば産業廃棄物の不法投棄取り締まりや、絶滅の恐れのある希少野生動植物の密輸・売買事件などの捜査を行っている現役の警察官で、ドラマの主人公ではありません。そんな日々の捜査や摘発の中で、様々な珍事件や難事件に遭遇し、それらの数だけ悲喜こもごもの物語にも出会っています。

たとえば、千葉県のある動物園にいたレッサーパンダのテンテンが密輸ブローカーの男によって盗まれ、転売の結果秋田県の無職の男性へと行き着きます。やがて通報と動物園の担当者等の鑑定により、ようやくその所在が明らかになり、盗品であるテンテンの差し押さえと保護になるはずが、テンテンは自分を保護に来た警察官を敵と見なし、爪を立てて激しく抵抗し、手に負えなくなってしまう。さて、どうしたものか…。

何の罪もない動植物の運命が、人間のエゴによって弄ばれる。読後、憤りとともに切なさにも駆られるノンフィクションです。(ゆ)

「農場にうれしいことがおこってほしい」という願いを込めて「ウレシーナ」と名づけられたメスのひな。はたして、ウレシーナは、ワビシーネ農場に幸せをもたらしてくれる存在となるのでしょうか。(あ)

いつもびんぼうで、びっくりするほど運が悪い、ワビシーネ農場のスカンピンさん。干し草をつくる時期には、かならず雨がふります。作物をとりいれるときも、やっぱり雨にたたられます。家畜たちも病気になるたり、キツネに食べられたりして数がへり、しかたなく農場を売ろうと考えていた矢先、メスのガチョウが金色のたまごをうみました。そのたまごからかえったひなは、目も、くちばしも、水かきのついた足のさきも、ぜんぶ金色。なんとフンも金色でした。

スカンピンさんがそのひなをなでると、ふしぎなことに、じんわりじわじわ、心があたたかくなったのです。しあわせの花が、ふうわりと、ひらいていくみたいに…。

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<http://www.library.taka.hyogo.jp/>

「読書」とは、文字を目で追いますが、「読み聞かせ」は、言葉を音として耳から聞く読書で、語り手と聞き手の共同作業です。(親から子に童話や絵本を聞かせます。)通常「読み聞かせ」を行う際には、読み手の感情に左右されにくいように淡々と読むのですが、家庭で親が子どもなどに読み聞かせる場合にはお話の登場人物の感情に合わせ、声色を作ったり緩急を付けたりする

「声に心をのせて」

北はりま特別支援学校

教諭 山崎 真

ことで、より子どもの感覚が刺激されます。「読み聞かせ」の効果は子どもの脳の前頭前野(感情や記憶のコントロールや、思考力や集中力の元となる部分)の機能を成長させると医学での研究結果が出ています。それは、ヒトの発生のメカニズムと大きな関わりがあります。子どもは母親のお腹の中にいるときに、まず耳の機能が、次に目の機能が順に発達していきます。母親が嬉しい時にはその鼓動を胎児も耳で聞き、母親が悲しんでいる時にはそれも胎児は捉えてしまうそうです。そのため、読み聞かせを行う際は、親は優しい気持ちで子どもに語りかけること

が大事なのです。私は勤務校で音楽の授業を担当しており、そのときは「読み聞かせ」と同じく、作曲者の意図した喜びや悲しみの感情をそのままピアノにのせて演奏するように心がけています。音を出す前には、無音の時間(間)をつくり、より子どもに作曲者の感情を感じてもらえるように授業作りを心がけています。「読み聞かせ」でも、作者の気持ちを親が共感し、その心をのせた声で、子どもに読み聞かせてください。そうすることで親と子の幸福な時間が生まれるでしょう。



ことばの葉だより

NHK 朝の連続
テレビ小説
「わろてんか」
のモデル

「まず、
やってみなはれ」

吉本 せい 編

吉本せいとは1889年(明治22年)、兵庫県の明石市で生まれ、その後大阪に移住し米穀商の娘として育ちます。勉強好きで成績も良く、進学を望んでいたようですが、当時、庶民にとって進学はまだ高嶺の花の時代。とりわけ「女子に学問は必要ない」という考え方がかなり強く、そのため尋常小学校を修了するとすぐに女中奉公に出たのでした。

船場の相場師、島徳蔵のところで女中奉公をするのですが、店は大いそう始末屋で、万事節約の家風に辟易させられたようです。そんなせいも、明治40年に荒物問屋の次男、吉本泰三と結婚します。しかし、夫の泰三は家業への熱意はほとんどなく芸人遊びに明け暮れていました。その結果、店を傾かせ、立ち退きをきっかけに店をたたむことになります。そんな泰三が明治45年、ついに寄席経営を始めます。そこでせいは寄席を繁盛させるため、木戸銭を5銭に下げたり、冷やし飴を売ってみたりと様々な工夫をこらし、少しずつ寄席を増やしていったのでした。それぞれの屋号につく「花月」という言葉、そこには「花と咲くか、月と陰るか、すべてを賭けて」という、せいの覚悟が込められています。

常に人々を笑わせて、世の中を明るくしたい。そんな笑いに命をかけた彼女の生き方は確実に現在に受け継がれています。一代でお笑い帝国「吉本興業」の礎を築き、女興行師と呼ばれた吉本せいの生涯。この機会に読んでみませんか。



ふくちゃんのウインク

あけましておめでとうございます。昨年末から寒い日々が続いていますが、ここで図書館からホットな話題をひとつ! 平成26年の12月から配布を始めた読書手帳12冊をすべて集められた方がちらほらと出てきました。そこで、何か記念にと杉原紙で作ったカードケースを職員一同で作成して、達成者にお渡しすることにしました。消しゴムハンコのデザインもかわいい仕上がりになったと思っています(自画自賛)。これからもみなさんに楽しんでもらえるような企画をし、多くの方に利用していただけるように取り組んでいきたいと思ひます。

今年もよろしくお願いいたします。(け)

商いの損は、またとり戻せるけど、
名人の芸を失うことは、
とり返しがつかへんもんなんや

—— 『吉本せいと林正之助
愛と勇気の言葉』より ——



吉本せいさんに関するクイズです。

- I. 吉本せいの生涯をモデルにした山崎豊子の作品はどれ?
①女の勲章 ②花のれん
③ぼんち ④家紋
- II. 昭和13年、せいはあるものを買収します。その建物とは?
①大阪市中央公会堂 ②法善寺横丁
③通天閣 ④大阪府立中之島図書館
- III. 昭和9年、京成電鉄と東芝などと共同出資してプロ野球球団を作ります。それはどこ?
①大阪タイガース(現、阪神タイガース)
②毎日オリオンズ(現、千葉ロッテマリーンズ)
③大日本東京野球倶楽部(現、読売ジャイアンツ)
④南海軍(現、福岡ソフトバンクホークス)
- IV. せいの息子、^{えいすけ}頼右の恋のお相手は?
①笠置シズ子 ②越路吹雪
③ペギー葉山 ④淡谷のり子

【こたえ】は右下にあるよ

【参考文献】

『吉本せいの生涯』(別冊宝島)、『笑いを愛した吉本せい』(洋泉社)、『吉本せいと林正之助 愛と勇気の言葉』(イースト・プレス)、『女興業師、吉本せい』(筑摩書房)、『近代日本の女性史 第6巻』(集英社)

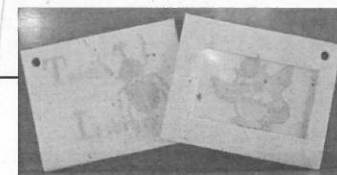
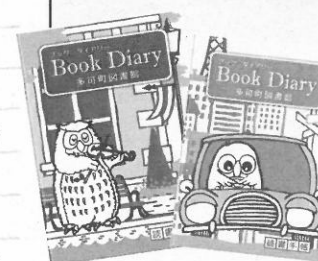
インフォメーション

読書手帳を12冊集められた方に、達成記念として杉原紙で作ったカードケースをプレゼントします。

※すでに集まっている方はお声かけください。

読書手帳は、図書館で借りた本だけでなく、自宅にある本や学校で借りて読んだ本なども記入していただけます。

現在、読書手帳を利用されている方はもちろん、
まだの方もこの機会にどんどん
ご活用ください。



【こたえ】 I・・・② II・・・③ III・・・③ IV・・・①

図書館見学

- 11月9日(木)
・キッズランドやちよ りす組
11月16日(木)
・キッズランドやちよ うさぎ組
11月30日(木)
・中町南小学校 2年生



絵本に夢中



館内を見学中♪

図書館には楽しい本がいっぱい!!
みなさんのご来館をお待ちしています。



図書館 NEWS

— 10~12月 —

手あそび・わらべうた講座

12月10日(日)

以前開催して好評だった今講座。講師の林美千代さんからは「わらべうたを通して子どもの中に言葉が増えていく。言葉が育つことは心が育つこと」と教わりました。参加者はひととき童心にもどり、素朴でどこか懐かしい、たくさんのわらべうたを学びました。途中からは子どもたちも参加し、お母さんと一緒に楽しい時間を過ごしていました。



読み聞かせ講座

9月29日(金)

ストーリーテリング講座

10月17日~(全3回)

大澤百世さんを講師にむかえ、読み聞かせ講座とストーリーテリング講座を開催しました。読み聞かせ講座では子育て世代の方を中心に開催。親子で絵本を読むことの大切さや、絵本が子どもの心を養う力を持っていることを改めて感じました。

また、ストーリーテリング講座では実際に語り手としておはなしを語っていただき、聞き手は物語の世界に引き込まれていました。



クリスマスミニピアコンサート

12月16日(土)

昨年好評だった山崎真さんのピアノコンサートを今年も開催しました。前半は山崎さんの奏でる音色にみんなうっとり。また後半はトーンチャイムや鈴などを使ったお客さんとの合奏もあり、楽しいクリスマスコンサートとなりました。

クリスマスおはなし会

12月24日(日)

クリスマスにちなんだ絵本や大型絵本などを使った特別おはなし会を開催しました。当日はお楽しみとして、絵本カバーで作った手作りパズルを参加者全員にプレゼントしました。



伊能忠敬プロジェクトチームスタッフ募集

平成30年は日本地図を作った伊能忠敬没後200年にあたります。その伊能さんが多可町を通ったってご存知ですか?

そこで図書館では6月の図書館まつりで「多可町と伊能忠敬」(仮)と題した講演会を開催します。(講座③)

それに先駆け、一緒に講座を盛り上げるスタッフを募集します。
※詳しくは、図書館までご連絡ください。



ところで

プロジェクトチームって?

全3回の講座を通して事前に伊能忠敬のことを学んだり、体験したりします。

- ・2/15(木)19時~ 顔合わせ会議
- ・講座① 測量機器を作ります
- ・講座② 伊能さんがたどった町内の道を実際に歩いてみます。



Book menu

『ジョン・マン』



山本一力/著

講談社
ジャンル:小説
(Fヤマ)

ジョン万次郎と呼ばれた男性をご存知ですか。幕末、漂流してから12年ぶりに自力で生まれ故郷に戻り、西洋事情に通じた日本人として英語や航海術などを日本に広めた人物です。土佐(高知県)の漁師だった14歳の万次郎は、漁のさなか嵐に見舞われ、4人の仲間たちとともに遠くの人島へ流されます。5ヵ月後、近くを通りがかった米・捕鯨船「ジョン・ハウランド号」に救助されますが、鎖国をしていた日本には戻ることができませんでした。遠目がきいて飲み込みが早く、礼儀正しくて気骨もある万次郎。船員たちは敬意を込めて「ジョン・マン」と呼び、心を開いていきます。仲間はハワイで下船しますが、船長にその才を愛された万次郎だけがアメリカへ向かいました。差別を受けることもありましたがよく理解者に恵まれ、日本人として初めて英語や数学などの高等教育を受け、成長していきます。現在6巻まで出版されていますが、波瀾に富んだ万次郎の旅はまだ続きます。夜長の今、じっくり読んでみませんか。(あ)

『はじまりは愛着から』 人を信じ、自分を 信じる子どもに



佐々木正美/著

福音館書店
ジャンル:実用書
(379サ)

「愛着感情」というのは、人間が人を信じ自分を信じて生きていくための基本的な感情です。子どもは充分な保護のもと、まず母親や保護してくれる人に愛着感情を抱きます。母親の顔をうかがいながらふるまう話さなければならぬ環境ではけつして身につかず、望んだまま愛され、本音でもの言えるように育てられて初めて、愛着の感情は豊かに育つのです。では、心から安心して親を信じる子どもに育てるにはどうすればよいのでしょうか。何よりも、「親が望む子ども」に育てるのではなく、「子どもが望んでいる親」になるという気持ち忘れず、気長に子どもを見守る、という姿勢が大切なようです。日々の生活の中で育まれる親子間の愛着が、他との比較から持てる自信ではなく、幸福に生きていくために必要な「根拠のない自信」を持つ土台になります。

(り)

『君たちはどう生きるか』



吉野源三郎/著

ポプラ社
ジャンル:児童書
(K159ヨ)

主人公の本田純一君は中学二年生で、あだ名はコペル君といます。二年前に亡くなったお父さん代わりのおじさんは、人として知っておかなくてはならないことを教えてくれる大切な存在ですが、そんなおじさんがつけてくれました。

あるとき、コペル君自身に勇気がなかったせいで、大切な親友を裏切ってしまう事件が起きます。人はいろんな人と交り合いながら生き、そこで悩みや苦しみ、そして喜びに出会いますが、その事件がもとで、コペル君は学校に行けなくなるという人生初めての、ものすごく苦しく、つらい試練に出会うこととなります。この本は、人として知っておかなくてはならないことを、コペル君のひとりの交り合いを通して語りかけています。そして君たちに、人としてどう生きるのかを問いかけてもいます。コペル君が苦しい試練にどう立ち向かったのかは、どう生きたのかということなのです。さて、君は人としてどう生きますか?(ゆ)